

《担当者名》坊垣暁之

## 【概要】

臨床病態学ではさまざまな疾患の病態を学び、臨床症状と臨床検査を通じて診断に至る過程を臓器系統別に理解する。さらに治療方針決定や治療後の経過と臨床検査の関わりについても詳しく学ぶ。

## 【学修目標】

免疫アレルギー疾患、感染症、腫瘍性疾患、染色体・遺伝子異常、血液造血器疾患、内分泌代謝疾患などについて、主要疾患の臨床症状および診断・治療における臨床検査の役割を理解する。

- 1) 主要な感染症の臨床症状および診断・治療における臨床検査の役割を説明できる。
- 2) 主要な血液・造血器疾患の臨床症状および診断・治療における臨床検査の役割を説明できる。
- 3) 主要な内分泌疾患の臨床症状および診断・治療における臨床検査の役割を説明できる。
- 4) 主要な女性生殖器疾患の臨床症状および診断・治療における臨床検査の役割を説明できる。
- 5) 主要なアレルギー性疾患、膠原病、免疫不全症の臨床症状および診断・治療における臨床検査の役割を説明できる。
- 6) 主要な代謝・栄養障害の臨床症状および診断・治療における臨床検査の役割を説明できる。
- 7) 主要な感覚器疾患の臨床症状および診断・治療における臨床検査の役割を説明できる。
- 8) 主要な中毒の臨床症状および診断・治療における臨床検査の役割を説明できる。
- 9) 主要な染色体・遺伝子異常症の臨床症状および診断・治療における臨床検査の役割を説明できる。

## 【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	感染症	・領域別感染症 教科書 103～123、333～342ページ	坊垣暁之
2	感染症	・領域別感染症 教科書 103～123、333～342ページ	坊垣暁之
3	感染症	・病原体別にみた感染症 教科書 123～148、333～342ページ	坊垣暁之
4	感染症	・病原体別にみた感染症 教科書 123～148、333～342ページ	坊垣暁之
5	血液疾患	・貧血 ・白血病 教科書 149～158、343～347ページ	坊垣暁之
6	血液疾患	・骨髄増殖性疾患 ・悪性リンパ腫 ・M蛋白血症 教科書 159～165、343～347ページ	坊垣暁之
7	内分泌疾患	・下垂体疾患 教科書 172～178、355～362ページ	坊垣暁之
8	内分泌疾患	・甲状腺疾患 ・副甲状腺疾患 教科書 178～187、362～366ページ	坊垣暁之
9	内分泌疾患	・副腎疾患 ・その他の内分泌疾患 教科書 187～194、366～374ページ	坊垣暁之
10	女性生殖器疾患	・子宮疾患、卵巣疾患 ・悪性腫瘍の検査 教科書 209～211、433～439ページ	坊垣暁之
11	アレルギー性疾患、膠原病、免疫不全症	・アレルギー性疾患 ・免疫不全症 教科書 225～228、399～401ページ 教科書 238～240、401～407ページ	坊垣暁之
12	アレルギー性疾患、膠原病、免疫不全症	・膠原病および類縁疾患 教科書 228～238、401～407ページ	坊垣暁之

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
13	アレルギー性疾患、膠原病、免疫不全症	・膠原病および類縁疾患 教科書 228～238、401～407ページ	坊垣暁之
14	感覚器疾患、中毒	・眼疾患、耳鼻疾患 ・自然毒、有毒物中毒 教科書 266～278、422～428ページ	坊垣暁之
15	講義のふりかえり	講義のふりかえり	坊垣暁之

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

定期試験 80～90%

講義課題 10～20%

【教科書】

最新臨床検査学講座 臨床医学総論 / 臨床検査医学総論 奈良信雄・高木康・和田隆志 編著 2015年

【備考】

適時、プリント等の資料を配布します。

クリッカーを使用した双方向型授業を行います。

【学修の準備】

教科書の該当する項目を予習し、専門用語の意味などを理解しておくこと（80分）。

講義で用いた資料に関して復習し、理解を深めておくこと（80分）。

【ディプロマポリシーとの関連性】

(DP1) 生命の尊重を基盤とした豊かな人間性、幅広い教養、高い倫理観を身につけている。

(DP2) 臨床検査に必要な知識と技術を習得し、先進・高度化する医療に対応できる実践能力を身につけている。

【実務経験】

医師

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関での実務経験を活かし、臨床病態の理解・把握における臨床検査の意義、重要性、その他具体的な実践について講義する。